

SDGs新聞

グリーンエクスポ協会

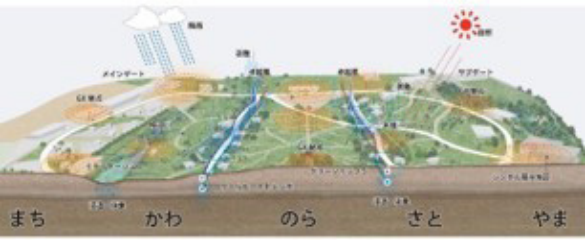
（公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会）

木や風がつくる気持ちいい場所って？

SDGsラジオを読みましょう！

暑い日に木かげへ入って、「すずしいな」と感じたことはありませんか？
実は、木や風、水や土には、私たちを心地よくしてくれる力があります。
このように、自然がもともと持つ力をいかして、くらしやまちをもっとすこしやすくする考え方を「グリーンインフラ」といいます。
横浜でひらかれる「GREEN×EXPO 2027」でも、自然や生きものがくらす環境をできるだけ残しながら、
木や風、水や土の力をいかして、だれもが心地よくすごせる会場づくりが進められています。
たとえば、地形をいかして雨水をゆっくり土にしみこませる「バイオスウェル」という工夫は、
雨水をしみこませるだけでなく、生きものがくらしやすい環境をつくったりもするんですよ。
自然は、ただながめるだけではありません。私たちのくらしを支える大切な役目があります。
みなさんの周りにも、自然の力が役立っているところはありませんか？ぜひさがしてみましょう。

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！



がぞうさんしょう
画像参照：
グリーンインフラの考え方を取り入れた会場イメージ
提供：公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会



がぞうさんしょう
画像参照：
バイオスウェルのイメージ
提供：公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会

緑や風、水、土などの自然には、生きものの住みかになったり、暑さを和らげたり、豊かな景色をつくったりと、さまざまなはたらきがあります。このような自然がもともと持っている力を、まちづくりにいかす考え方のことを「グリーンインフラ」といいます。横浜でひらかれる「GREEN×EXPO 2027」では、もともとある木々や「谷戸」という地形、そこにくらす生きもののたちの多様性など、自然の環境をできるだけ守りながら、こうした自然の力をいかした会場づくりが進められています。緑や水、風などの通り道を取り入れることで、人も生きものも心地よくすごせる場所をつくるとともに、自然にふれたり、自然を通して人々がつながったりできる場としていかしていきます。

その工夫のひとつが「バイオスウェル」です。これは、少し高低差がある地形をいかして、雨水を広く行きわたらせ、ゆっくりと水を流したり、ためたりしながら、土にしみこませるしくみです。雨水が一気に流れるのをおさえ、洪水や浸水のキケンを減らすことができます。また、まわりに草花を植えることで、生きものがくらしやすい場所をつくることにもつながります。さらに、土にしみこんだ水が蒸発するときには、まわりの暑さを和らげるはたらきもあります。GREEN×EXPO 2027では、このようなグリーンインフラの考え方を会場全体に取り入れ、多くの人に発信することで、自然が失われていくのを防ぎ、より豊かにしていく「ネイチャーポジティブ」の実現をめざしています。

キーワード

やと
谷戸

おか にかこ ひく ちけい あまみず あつ むかし た はたけ つか ばしよ
丘などに囲まれた、低くなっている地形のことです。雨水が集まりやすく、昔から田んぼや畑として使われてきた場所もあります。

こうずい しんすい
洪水・浸水

こうずい おおあめ かわ みず ふ しんすい みず いえ たてもの どうろ はい
「洪水」は大雨などで川の水が増えてあふれること、「浸水」は水が家や建物、道路などに入りこむことです。

ネイチャーポジティブ

さまざまな種類の生きものが、たがいに関わりながら生きる「生物多様性」を守りながら、自然を元気な状態に戻し、さらに豊かにしていこうという考え方で。

対象ゴール



みなさんにできること！

み まわ し ぜ ん ち から や く だ
身の回りで、自然の力が役立っているところがないかさがしてみましょう。

おさらい

- 自然には、生きものの住みかになったり、暑さを和らげたり、豊かな景色をつくったりと、さまざまなはたらきがある。
- 緑や風、水、土など、自然が持つ力をまちづくりにいかす考え方を「グリーンインフラ」という。
- GREEN×EXPO 2027では、もともとある自然や生きものを守りながら、その力をいかした会場づくりが進められている。

メモ